

工事現場に高校生招き撮影会

作業員の姿に興味津々

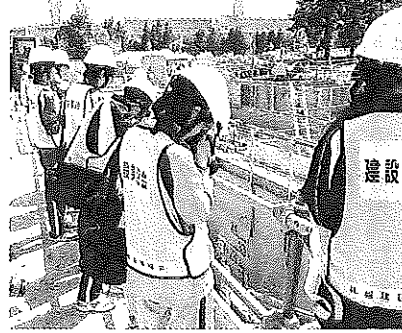
創立100周年記念事業の一環

札建協

一般社団法人
札幌建設業協会
(岩田圭剛会
長)は十九日、

札幌市内の工事
現場に札幌南陵
高校写真部の生
徒十六人を招き
撮影会を開催し
た。写真部。同
協会が主催する

写真展に出展するのが目的
で、協会創立百周年記念事
業の一環。生徒は現場で働
く作業員を被写体に夢中で
シャッターを切っていた。
建協では来年の二月十二
日から向こう四日間の日程
で、札幌駅前の地下歩行空
間で写真展を開催する。展
示を通して市民や道民に建



設業への理解と関心を深め
てもらう目的で、協会創立
百周年記念事業の一環。写
真展のテーマは「会員企業
の施工中の現場とそこで働
く人々」。
当日は村崎淳一教諭に引
率された札幌南陵高校写真
部の生徒十六人が現場を訪
れた。撮影場所は札幌市発

注の「平岸配水池耐震改修
工事」(岩田地崎・北土・
道興建設JV施工)の現
場。

普段は見る機会のない現
場に足を踏み入れ、生徒も
興味津々といった様子。作
業する建設機械の動作や作
業員の働く姿に夢中でシャ
ッターを切っていた。

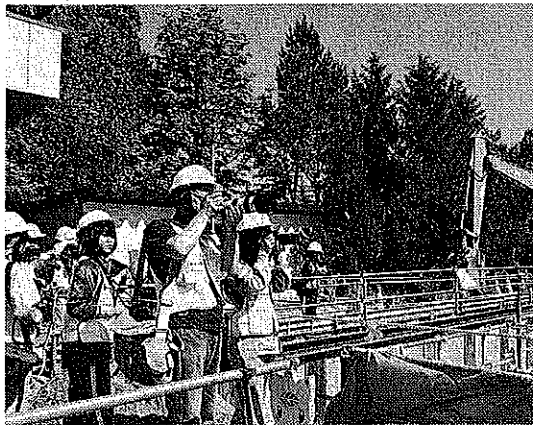
写真部長を務める手嶋美
結さんは「普段入ることの
ない現場に来て良かった。
働く人たちの姿が特に
印象的だった」と感想を
語っていた。

現場に立ち会った岩田地
崎建設(株)の扇谷隆工事は
「イベントを通じて、こう
いう建設現場の仕事もある
んだということを知らせても
らえれば」と撮影会の意義
を強調していた。

札幌南陵高 写真部員 札幌建協の100周年写真展へ

札幌建設業協会(岩田 圭剛会長、82社)が企画する写真展「ただいま工事中!!」の展示用写真を撮影するため、札幌南陵高の写真部員が19日、札幌市豊平区で岩田地崎建設・北土建設・道興建設が共同で施工する平岸配水池耐震改修No.4池の現場を訪れた。部員たちは慣れない被写体に試行錯誤しながら、懸命にベストショットを狙った。

写真展は、札幌建協が2016年に迎える創立100周年事業の一環として、16年2月に札幌駅前通地下歩行空間で開催するもの。会員企業が自社施工している現場で、日々変化する風景や高品質の成果品を提供し、うと工事に向き合う技術



顧問から指導を受けながら撮影に臨む部員たち

懸命にベストショット狙う

平岸配水池耐震改修現場で

者・技能者の姿をPRする探っていた。

この現場は札幌市水道局が発注、配水池の耐震化に向けて、224本にもおよぶ柱の補強や耐震壁の設置などを進めるもので、土木、建築両方の要素を含んでいる。この日は約40人が作業に当たっていた。扇谷隆所長から工事内容について説明を受けてから現場に入った部員16人は、重機のオペレーターや資材運搬の合図を出す作業員などに、時には「こっちを向いてください」「ちょっと止まってください」などと声を掛けながら撮影。配水池の内

部では、所々に差し込む光をうまく採り入れながらさまざまなアングルを撮っていた。手嶋美結部長は「完成したら見られない現場に、入ることができて貴重な経験になった。工事現場での撮影は初めてだけど、楽しかった」と満足した様子。顧問の村崎淳一教諭も「建設現場で生き生き働く姿が良かった。またこうした機会があれば」と話していた。

一方、受け入れた扇谷所長は「建設業は人材不足といわれている。写真を通して魅力をPRしてもらえば」と期待。建協の中嶋富男事務局長は「生徒たちが現場をどう見たかは分からないが、みんなが関心を持って撮影に臨んでくれたと思う。次に同種の事業を実施するときは、今回をベースにもっと中身を充実させることができるのではないかと話していた。